

いよいよ2学期が始まりました。

夏休み中、大きな事件や事故がなかったこと、そして、皆さんとともにこうして始業式を行えることを、うれしく思います。

長い休みの後は、程度の差こそあれ、誰もがしばらくはストレスを感じるものです。大人であってもそうです。大きいストレスなら、決して1人で抱え込まず、先生方や友だちを頼りましょう。そして、リズムを取り戻していくようにしましょう。

今日は二つの話をします。

まず、この夏休み中の皆さんの頑張りを、全てではありませんが、紹介します。本校生は、勉強、部活動、学校行事等様々なことに一生懸命取り組みました。

勉強では、暑期中、補習を受けるために登校した人。よく頑張りました。自宅でも、自ら設定した目標に向けて頑張った人は多いと思います。努力は報われます。

各種コンテストにも積極的に参加してくれました。

1「日本生物学オリンピック」で、3年9組の廣田君が見事全国1位となりました。4954人のエントリーで、第1位。素晴らしいと思います。

2「化学グランプリ」では、同じく3年9組の砂川君が銀賞を受賞しました。

3「全国物理コンテスト 物理チャレンジ」では、同じく3年9組の町田君が銅賞、麦君が優良賞を受賞しました。

また、少し前になりますが、「自然科学研究会化学班」が「高校環境化学奨励賞」を受賞しました。皆さんおめでとう。

次に部活動での活躍です。「陸上部」は、90回目を数える伝統の神戸・兵庫・長田対抗陸上競技大会がありました。勝利は譲りましたが、よく健闘したと聞いています。なお、1年5組の山本君が、3000メートル障害で県大会1位になり、近畿高校ユースに出場します。

ラグビー部も伝統の、大阪の天王寺高校との定期戦、北野高校との定期戦があり、ともに圧勝しています。

「合唱部」は、県NHK杯で金賞を受賞し近畿大会出場、また、県合唱コンクールでも金賞を受賞し関西大会出場が決まっています。

「ESS」は、関西6高校（北野、堀川、奈良、膳所、彦根東、神戸）での即興型英語ディベート交流大会に参加し、1年5組の鄭さんが、ベスト・ディベーター賞を受賞しました。皆さん、おめでとう。そして、次の大会でも頑張ってください。

多くの研修も実施されました。イギリスやシンガポールとの国際交流、SSHの全国の生徒研究発表会、東北ボランティアや、関東サイエンスツアー、東京キャピタルツアー

一といった研修にも多くの生徒が取り組んでくれました。

また、学校行事である総合理学科説明会やオープンハイスクールでは、自治会、総合理学科生、各部活の皆さんが、工夫を凝らして本校の魅力をアピールしてくれました。アンケートを見ると、自治会の学校紹介、放送委員会の動画、音楽関係各部の歓迎演奏、暑い中、要所要所でおもてなしをしてくれた生徒の皆さんの笑顔や丁寧な対応ぶりに、「本当に素晴らしかった」との評価をいただきました。

自治会はまた、体育大会や音楽会に向けて、夏休みの始めに合宿をして議論を重ね、2度のフリートーキングを経て、着々と企画や準備に取り組んでいます。

皆さんは、こうしたことを通して、着実に成長しているのだと断言します。

同じ神高生の多彩な活動、活躍を共有し、互いに刺激を受けながら更に頑張っていくてくれることを期待し、紹介しました。

それにしても、いかがですか。この多様な活躍ぶり。「多様性」を英語では「ダイバーシティ」と言います。神高生としてのアイデンティティを共有し、多様性＝即ちダイバーシティを認め合い、その力を結集することが、発展していく組織として大切です。神戸高校の底力と可能性を感じています。

2つめは、2学期は、皆さんがそれぞれ、次の段階に大きく進むために、チャレンジをしていく時期であるという話をします。

過日、NHKのEテレの番組「先人たちの底力 知恵泉」という番組の再放送で、井深さんが取り上げられていました。言わずと知れた、「世界のソニー」の創業者であり、われらが神戸高校の前身、神戸一中のOBです。一誠会館のホール名から、知らない人はいないと思います。

この番組の中で、井深さんの知恵として、いくつかの言葉が取り上げられていました。今日は一つだけ紹介します。

それは、「トライ＆エラーこそ成功の鍵」というものです。「トライ＆エラー即ち挑戦と失敗を繰り返すことが経験になる。その経験が蓄積されて、独自のノウハウはできていく。」というものです。だから「創造的な失敗は恐れるな」とも言っています。すべきかしないべきかに迷うことがあるかもしれないが、前向きなことなら、まずは、チャレンジする、失敗してもそれが次の成功につながる、ということです。

今の自分にとって、「自己実現」をめざす自分にとって、未来の自分にとって、それが大切だと思ったなら、チャレンジしましょう。ひとり一人の可能性を広げ、確固たる経験を蓄積していくために、2学期は、ぜひ、挑戦的な活動を積み重ねて

いってください。

2学期も充実した学期になることを願って式辞とします。